

オーディオ実験室収載

パワーリベラメンテの展開(12)

—総合評価(1)—

1. 始めに

リベラメンテ適用対象の拡大、展開を図ってきましたが、この時点での A 氏、S 氏、Y 氏の他、拙宅は初めての F 氏にもご来臨いただき、最近の一連の対策の成果も含めた総合評価を行っていただきました。即ち、パワーリベラメンテの効果以外に、①iPhono2 台によるアナログ再生、②512sDSD と 256sDSD の Native 再生、③CD から DSD へのリアルタイム変換再生、④光フレッツの高速化、無線ルーターの高速化、LAN ケーブルのオーディオグレードへの交換などによるベルリンフィル Digital Concert Hall 再生、⑤EMI のレコーディングモニターとそのアンプの試聴、⑥アクションパッドや ES-OT4 などアクセサリーの効果などについて総合的に確認していただきました。

2. 試聴の経過

パワーリベラメンテの使用状況としては、すべての機器の給電はパワーリベラメンテを接続したタップから行い、TASCAM DA-3000 だけはタップからもパワーリベラメンテを接続しています。この条件で順次以下の試聴を行っていきました。

2-1) 512sDSD と 256sDSD の Native 再生

最初に、iPhono の活用(12)—イコライザーカーブの選択(3)—でも実施したのと同じく、いくつかの 256sDSD 音源の再生と同じ 64sDSD 音源から製作された 256sDSD と 512sDSD の違いを聴いていただきました。iPhono の活用(12)の際にご同席いただいた A 氏から確かにパワーリベラメンテ導入による効果がでているとのことでした。256sDSD と 512sDSD の違いも分かるし、256sDSD 音源の一つの Fazioli のピアノの音はスタンウェイなどと違うということも分かるとのコメントがありました。

2-2) CD から DSD へのリアルタイム変換再生

次に CD から 256sDSD へのリアルタイム変換再生を行いましたが、同様に A 氏からパワーリベラメンテ導入による効果がでているとのことでした。Y 氏から 256sDSD へのリアルタイム変換再生でない再生もという要望がありましたので、44.1KHzPCM と 352.8 KHzPCM の再生も行い、3 者の音の違いを確認していただきました。ここで、もとの CD の音から変ってくる理由について種々議論がありました。

2-3) アナログ再生とアナログから DSD 録音した DSD 音源の比較

これも A 氏から両方ともパワーリベラメンテ導入による効果がでており、その差が

縮まっているとのことでした。Y氏からはちょっと聴きでは違いが分かりにくいというコメントもありました。

2-4) EMT981によるCD再生とBZT-9000からのBS録画の再生

ここでも同様に以前とは変わってきているとのコメントがありました。ここでF氏からスイープシグナルの入ったCDをかけるようリクエストがあり、 f_0 が27HzのFALについて重低音は仕がないとしても、妙な定在波はそれほどないようだ、リスニングポジションではすぐ上の天井からの反射が多いようだとのご指摘がありました。

2-5) ベルリンフィル Digital Concert Hall再生への効果

このベルリンフィル Digital Concert Hall再生は、皆さんご経験がなかったようで、ベルリンフィル大ホールのホールトーンや回り込むような低音が新鮮な印象を与えたようです。早速Y氏はパッドを、F氏はスマホを取り出してサイトの画面を確認されていました。無料サンプルのストリーミング再生もできますので、イヤホンでの音質を確認されることをお薦めしました。日本でも大手電機メーカーの技術力ならこれくらいのことは容易にできると思われる所以、日本のオケでも同様のサービスが実現して欲しいものです。

2-6) アナログ再生

ここでLP-12とOrtofon Royal NとiPhono2台によるアナログ再生に入り、S氏とY氏にご持参いただいたアナログ盤のイコライザーカーブの選択を行いました。一枚ずつの盤について個々の選択を行っていきましたが、これまでに実施したクラシックとジャズについての議論がトレースできるかたちになりました。計3回にわたって実施したイコライザーカーブの選択実験は有益だったと思います。

<http://audiockenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/12/471aedc16d10464f5ff9d0112ce33596.pdf>

<http://audiockenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/12/555f29c4df3ceb460d3501f0740c584a.pdf>

さらに、F氏からもっといろいろなソースを聴きたいということで、ジャンルを広げてアナログ三昧ということになりました。この頃からアルコールの潤滑油も効きだして、オーディオ仲間のチアリーダーのS氏のご活躍で一段と盛り上がってきました。

2-7) EMIのレコーディングモニターとそのアンプの試聴

EMIのレコーディングモニターのEMI DLS 529はLeak Point 1のプリとIPC AM1029のパワーアンプ (RCA6L6からKT66に換装) で駆動しています。これらはパワーリバメンテで給電されたKOJOのタップから二次的に給電されたプロ用のタップからの給電になっています。このモニターは通称アビーロードスタディオモニターと称され、ビートルズの録音に使われたという逸話が語られていますので、S氏の持参された最近話題のビートルズのモノLPボックスから1枚アナログをかけて

みることになりアナログの再生もガラード 401 と EMT XSD-15 に替えてみましたところ好評を得ました。この DLS 529 の音を F 氏が正統的なモニターの音だということでいたく気にいられ、ジャズの CD の再生を所望されました。さらにアナログや CD を続けて聴くことになり、製作年代から予想される音より意外にフレッシュなところが各位の気にいってもらいました。

4. まとめ

パワーリベラメンテの効果は一連のその他の対策とともに評価していただけたものと思われます。特にベルリンフィル Digital Concert Hall 再生と EMI のモニターの再生は新鮮な印象を持っていただいたようです。

以上